

宮城県と山形県の雇用情勢比較に関する一考察

前田 実咲

本研究では、宮城県と山形県の雇用労働に関して、人口や企業数の差異から、①「宮城県は正規雇用労働比率が高く、山形県では非正規雇用労働比率が多いのではないか」、②「非正規雇用労働の選択理由について、宮城県では個人が望む結果になっている一方、山形県では個人が望む結果になっていないのではないか」という仮説を立て、この仮説を検証するために、宮城県と山形県の雇用労働情勢について、雇用形態、産業構造、賃金状況等を対象に、総務省・厚生労働省・山形県・宮城県の統計資料を活用することにより、分析し比較した。本研究の特徴として、非正規雇用労働の状況や、その選択理由についても分析した。

分析に基づく考察の結果、「山形県は中小企業が多く、安定した正規雇用を中心に雇う傾向にあることから、正規雇用労働比率が高い」との結論を得た。非正規雇用労働の選択理由については、「労働市場規模の違いから、宮城県の方が前向きな理由での選択が多い」との独自の考察結果を導いた。さらに、両県に関する非正規雇用労働の単純比較から発展して、「宮城県、山形県ともに不本意の非正規雇用労働者が10%前後おり、無視できない数値である」ことを指摘した。これを踏まえて、第Ⅷ章では「各県労働局の役割」についても論じた。